

1 学校教育目標

ともに 学び ともに 遊ぶ
 ○やさしい子（重点目標） ○考える子 ○元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

| | | |
|---------|---|---|
| ○学校像 | <ul style="list-style-type: none"> 児童にとって安心、安全な学校 保護者や地域とともに共創する学校 | <ul style="list-style-type: none"> 確かな学力と豊かな心、健やかな体を育む学校 |
| ○児童・生徒像 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本が定着し、学習意欲に満ちた児童 心身ともにたくましく挑戦する児童 | <ul style="list-style-type: none"> 規範意識と協働の精神をもち、思いやりのある児童 |
| ○教師像 | <ul style="list-style-type: none"> 児童に寄り添い、やさしさと厳しさのある教師 教育の専門職としての自覚と誇りをもつ教師 | <ul style="list-style-type: none"> 常に自らの指導力を高めようとする教師 |

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈学校の現状〉

明るく素直な児童が多く、学校全体が落ち着いた雰囲気の中で教育活動を行っている。教職経験の少ない教職員が増えている中、OJT を有効に機能させ、教員一人一人の指導力を高めるとともに、学校全体の組織力も高まっている。特別支援教育を意識し、「ユニバーサルデザイン化」で授業実践をしている。PTA や保護者、地域の方々は学校の教育活動を理解していただき協力的である。

〈前年度の成果と課題〉

○児童一人一台端末の配備により ICT を活用した学習が一段と充実した。全教員で授業改善に取り組み、Google の各種ツールを活用した授業により児童の個別最適な学習が進み、グループワークの充実が図られた。AI ドリルの導入により、家庭学習や補充学習に有効に活用することもできるようになった。今後も一人一人の教員の授業力の向上に努めるとともに、つまずきの解消に向けた補充学習の充実をすすめていく。

○体力向上については、昨年度に引き続き年間を通してなわ跳びに取り組み、持久力や瞬発力、リズム感の向上を図っていく。課題である立ち幅跳び、反復横跳び、ボール投げについては常時行える場を20分休みや体育時に活用してバランスのとれた体力向上をめざす。

○児童主体のいじめ防止活動「TKR」は、全校が楽しめるイベントの計画やポスターを作成、いじめ防止パレードや合い言葉のコール等児童の実態に合わせて活動内容を工夫し、持続可能な取組となっている。

4 重点的な取組事項

| | 内 容 | 実施期間（年度） R:令和 | | | | |
|---|--------------|---------------|----|----|----|----|
| | | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 |
| 1 | 学力向上アクションプラン | ○ | ○ | ○ | | |
| 2 | 心の教育の推進 | ○ | ○ | ○ | | |
| 3 | 健康な子供の育成 | ○ | ○ | ○ | | |

5 令和5年度の重点目標

| 重点的な取組事項－1 | | 学力向上アクションプラン | | | | | | | |
|--------------------------------|---------------|--|-------------|---|------------|--|---|---|-------------|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 (目標通過率) | | 実施結果 (通過率結果) | | コメント・課題 | | 達成度 ◎○△● | |
| 基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた授業改善と授業力の向上 | | 区学力調査4月の学校全体目標値通過率 国語80% 算数85% 区学力調査2月の定着度確認テスト学校全体目標値通過率 国語75% 算数75% | | 区学力調査4月の学校全体目標値通過率 国語81.3% 算数84.8% 2月の定着度確認テスト学校全体目標値通過率 国語78.4% 算数79.0% | | 4月の調査において国語・算数共に概ね達成基準に到達し、昨年度の国語78.2%、算数80.2%から向上している。 ・学習の定着状況と具体的な取り組み6(1)を参照。 | | ○ | |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | | | | | |
| 新・継 | アクションプラン | 対象学年 実施教科 | 頻度・ 実施時期 | 具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように) | 達成確認 方法 | 達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度) | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 ◎○△● |
| 継続 | ICTを活用した授業力向上 | 全学年 全教科 | 通年 | 児童一人一台のタブレット端末を使用した授業の推進 | 授業観察 | 100% | ICT支援員による児童へのタブレットを活用した課題についての研修やICT担当によるプログラミング指導研修を実施した。校内研究ではICTの活用を毎回提案し、指導力向上に役立てた。全教員がタブレット端末を有効に活用した指導を推進することができた。 | 昨年度の課題であったICTを活用した指導力の偏りについて、研修等を通じて改善することができた。 | ◎ |
| 継続 | 授業力OJT | 全教科 | 通年 | 教科指導専門員による足立スタンダードの確認と区教育研究会の内容の共有、ICT活用方法の伝達 | 授業観察 | 100% | 教科指導専門員による足立スタンダードの確認やICT活用方法の研修を実施した。主任教諭によるOJT研修を年間8回実施し、若手教員の育成を推進した。 | 主任教諭の得意分野と若手教員の需要に応じて今後の研修の内容を精査していく必要がある。 | ◎ |

| | | | | | | | | | |
|----|---------------|----------|--------|--|--------------|----------|--|---|---|
| 新規 | 児童の ICT 活用の推進 | 全教科 | 通年 | デジタル教科書の活用・カメラの活用・AIドリルの活用・プレゼンテーション・プログラミング・タイピング | 週案点検 授業観察 | 100% | 5・6年生は算数のデジタル教科書を主に図形やプログラミングで活用した。AIドリルを学校全体で共通の課題として設定し、実施した。各学年に応じたプレゼンテーションをスライドやジャムボードを活用して行った。 | 算数や外国語において児童の自主的なデジタル教科書の活用方法や、AIドリルの活用方法を提案できると良い。 | ○ |
| 継続 | 読書貯金活動 | 国語科 | 通年 | 足立読書通帳の活用・年間 低学年 50冊以上 中、高学年 30冊以上 | 読書通帳の 点検 | 100% | 低学年55冊 中・高学年32冊 100%達成 | 学年に応じた内容の本を基準となる冊数読むことができた。より読書を推進するために朝学習での読書を取り入れる。 | ○ |
| 継続 | 少人数チーム研究 | 全教科 | 通年 | 学年・専科グループによる校内研究の推進、全員研究授業を実施 | 授業観察 行動観察 | 100% | 「指導と評価の一体化」「個別最適な学び」を主題とし、全学年において実施した。 | 協働的な学習ができるような手立てを考える必要がある。 | ◎ |
| 継続 | 調べる学習 | 全教科 | 4月から9月 | 3年生以上が調べる学習コンクールに出品参加 | 作品点検 | 出品率95%以上 | 調べる学習出品展率は100%で目標を達成した。 | 今年度の目標は達成した。入選者も2名出たので、来年度に引き継いでいく。 | ○ |
| 継続 | 立ち戻り学習教室 | 国語 算数 | 週1回 | つまずき解消のための補習補充指導を実施 | 2月校内調査 | 通過率75%以上 | 国語78.4% 算数79.0% | ・学年、教科によって差があった。分析結果をもとに個に応じた補充を行い、つまずきを解消する。 | ○ |
| 継続 | 漢字・計算検定 | 国語 算数 | 各月1回 | 朝学習、自主学習で学習した内容の中から出題した基礎学力の定着 | 月末にテストを実施 | 合格者85%以上 | 漢字91.5% 計算93.9% 合格するまで複数回実施した。 | 支援が必要な児童には、個別の課題を出し、全員が達成感を味わうことができた。検定1回目の合格者を増やしていくことが課題。 | ○ |

| | | | | | | | | | |
|----|------|-----|----|-----------------------|--------|-------|--|---|---|
| 継続 | 自主学習 | 全教科 | 通年 | 週に1回以上、めあてと振り返り・アドバイス | ノートの点検 | 90%以上 | 1日1ページではなく、毎週末の自主学習の課題に加えて平日は自主的な学習として取り入れた。週間でみた基準の達成率は90%以上となった。 | 自主学習が、学年が上がるごとに、より自主的に行われるように指導を段階的に行う。 | ○ |
|----|------|-----|----|-----------------------|--------|-------|--|---|---|

| 重点的な取組事項－2 | | 心の教育の推進 | | | |
|----------------|---|---|--|--|-----|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 思いやりの気持ちと態度の育成 | | ・3回のいじめアンケート調査において対応後全て解決 | ・いじめアンケート調査と聞き取り、必要な指導を行う。3か月経過をしたものは全て解決。深刻ないじめに発展するケースは見られない。 | ・複数の相談で名前がある児童が数名いる。全校での指導を続けていく。 | ○ |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 児童によるいじめ防止活動 | ・児童が自主的にいじめ防止活動を実践 | ・いじめ防止パレード・合言葉コール・辰沼しぐさの活動を年間通して実施 ・全校で楽しめるイベントの計画・実施 ・新たな取組の計画 | ・全校が楽しめるイベント・いじめ防止活動・合言葉コールなどを行うことができた。自主的に計画を立てて、新しい取組も実行でき、いじめ防止を広く呼びかけることができた。 | ・深刻ないじめに発展するケースはなかった。トラブルはあったが、その都度解決することができた。 | ◎ |
| 気持ちのよいあいさつの推進 | ・児童アンケートで、あいさつ、規範意識に関する項目の肯定的評価が80%以上 | ・「あいさつ・返事・靴そろえ」を年間通して指導 ・PTA、地域と連携したあいさつ運動や、ふれあい月間での児童主体の取組 | ・週目標での設定や、ふれあい月間での重点的な指導や日常的な指導により、挨拶や返事、整理整頓の意識が高まってきた。 ・規範意識に対する肯定的な評価は89.9%（あいさつは93.2%）であった。 | ・自分からの挨拶や自発的な行動がさらに増えるよう、指導を継続していく。 | ○ |
| 交流活動の充実 | ・各学年異年齢交流を2回以上実施 ・特別支援学級と通常級の交流活動を実施 | ・年間計画を立て各学年異学年、異校種の交流を実施 ・特別支援学級と通常学級の交流活動を実施 | ・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、全ての学年が年2回以上の交流活動ができた。 ・異学年で交流することで、他学年のよさを互いに気付き、楽しむことができた。 | ・計画的に交流を深め、実施できることを増やし、新たな活動を充実させる。 | ◎ |

| 重点的な取組事項－3 | | 健康な子供の育成 | | | |
|----------------------|---|---|---|--|-----|
| A 今年度の成果目標 | | 達成基準 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 運動に親しみ、基礎体力をつける | | 運動が好きといえる児童85%以上 | <ul style="list-style-type: none"> 運動が好き、どちらかというと運動が好きと回答した児童は、86.8%であった。 休み時間の外遊びの実施や体育実技研修による体育授業の充実によって日常的に運動に親しむことができた。 | <ul style="list-style-type: none"> 休み時間の外遊びの更なる活性化に向け、運動委員会児童と連携した運動遊びを実施する。 児童の体力向上に向け、体育科の学習での体力向上に努める。 | △ |
| B 目標実現に向けた取組み | | | | | |
| 項目 | 達成基準 | 具体的な方策 | 実施結果 | コメント・課題 | 達成度 |
| 健康な生活習慣の確立 | <ul style="list-style-type: none"> 早寝・早起き・朝ごはんを実施している児童90%以上 | <ul style="list-style-type: none"> アンケートの実施 家庭との共通理解と意識を高めるため、個人面談の機会にアンケート結果を共有 チェックシートを活用した児童への規則正しい生活リズムの定着 | <ul style="list-style-type: none"> 保護者対象に生活習慣アンケートを実施。次の結果となった。朝食を毎日食べている…94% 7時までに起床…73% 22時までに就寝…57% 結果を個人面談時に共有し、保護者への啓発を行った。 夏休み後半に児童対象に生活習慣チェックシートを行い、規則正しい生活の意識づけを行った。 | <ul style="list-style-type: none"> 朝食は基準を達成できたが、早寝早起きに関しては目標値より大きく下回った。 次年度は身体計測時の保健指導や、学校保健委員会等を活用し、睡眠の大切さを児童、家庭ともに指導、助言していく。 | △ |
| 計画的な体力づくり 基礎体力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> 学年ごとに数値目標を設定し、持久走、長なわ週間の実施。数値目標を80%以上 体力調査で都平均を上回る種目50%以上 運動の場の設定や運動遊びの実施 | <ul style="list-style-type: none"> 体力向上に向けた年間を通じた短なわの実施や持久走、長なわ週間の計画と実施 休み時間に運動委員会の児童と連携した運動遊びの企画と実施 | <ul style="list-style-type: none"> 体育時に短なわを使った準備運動を行った。長なわや持久走は期間を決め、重点的に取り組んだ。(達成63%、長なわ80%、持久走50%) 体力調査で都平均を上回った種目は、40%であった。 運動委員会児童と連携し「辰沼パーク」の実施、ボールの貸出を行った。日常的に運動に親しめるようにした。 | <ul style="list-style-type: none"> 安全な体育、体力向上を図れる体育の実施を目指し、校内で統一した取組を計画する。 | △ |
| 体育科の授業力向上 | <ul style="list-style-type: none"> 校内体育実技研修の実施 5回 | <ul style="list-style-type: none"> 校内実技研修の実施 年間指導計画の改善 体育環境整備を推進 | <ul style="list-style-type: none"> 教員の授業力向上や児童の体力向上に向けた取組の共通理解を図るため、校内体育実技研修を5回行った。うち1回は、専門性のある外部講師と連携して行った。 体育用具や体育倉庫の整備を行い、体育授業の充実を図った。 | <ul style="list-style-type: none"> 児童の体力向上に向けた取組を、校内全体で統一して行っていく。そのために、次年度も計画的に研修を行い、共通理解を図っていく。 | ○ |

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

今年度は、昨年度のICT研修や校内研究での成果を生かし、一人一台端末を有効に活用した個別最適な指導を推進することができた。今年度の校内研究では、研究主題でもある「指導と評価の一体化」や「個別最適な学び」に注力し、指導力の向上を図ることができた一方、協働的な学びにやや課題が残った。区調査の結果では、昨年度から目標値到達率が向上し、基準を達成することができたが、昨年度と変わらず「書く力」に課題がある。より一層の言語活動の充実に加え、来年度は、読書をする児童が更に増えるよう、朝学習等の見直しを図る。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

登校時のあいさつ運動にご協力いただきありがとうございます。自分から気持ちのよい挨拶をする子供が増えてきました。また、子供たちのマナー向上や安全・安心な学校づくりに効果的な取組として大きな成果をあげています。子供の生活習慣と学力・体力の定着には関連があります。今後も「早ね・早起き・朝ごはん」や「家庭学習の習慣」についてご協力をお願いいたします。子供たちの健全育成に向けて、学校と家庭、地域が連携して取り組んでいきたいと考えます。よろしく願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

特別支援教育を意識し、「ユニバーサルデザイン化」を進め、環境を整え授業実践をしている。特別支援学級「つばさ」は開設3年目を迎え、現在8名の児童が在籍している。令和6年度には、学級数が2学級になり児童も10名になる予定である。今後も一層特別支援教育の充実を図っていく。児童主体のいじめ防止活動をはじめとする「いじめ防止教育」は12年目を迎えた。今年度は、児童が自主的に計画を立て、いじめ防止を広く呼びかけることができた。今後も持続可能な取組とするために児童と一緒に活動内容の見直しを行い、安全と安心を確立して、児童が楽しく充実した学校生活を送れるようにしていく。

教職員の働き方改革を推進していくためにも、学校が組織として効果的・効率的に機能するように組織改善に取り組む。そして、教員が子供と向き合う時間やゆとりを確保していく。